

夏の 隠岐の島町・看護研修 ～看護学生体験ツアー～ 報告書

陸から、海から、住民から、
隠岐の島町を知り、
離島の看護について学びました！！



平成24年9月6日(木)～9日(日)



島根県立大学出雲キャンパス
キャリア委員会



<はじめに>

「隠岐の島町・看護研修」

山下 一也(島根県立大学出雲キャンパス 副学長)

今年初めて隠岐の島研修・看護研修を隠岐の島町のご協力のもと、3泊4日でさせていただきました。住民の皆さん、関係の皆さんの暖かいご支援があり、隠岐病院の見学、先輩との意見交換会、民泊、体験型の隠岐の島町観光など看護学生体験ツアー・研修内容に多くの経験と感動を参加学生たちは得たようで、大学としても大変喜んでおります（報告書の「学びの成果・参加者の体験レポート」の項）。

島根県立大学は、その大学憲章の中に、「地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して、地域に貢献する」という方針を出しています。しかし、実際に地域という現場に出かけていって初めて地域が分かることがたくさんあり、いくら座学をしても実際には地域のことは分かりません。島根県立大学出雲キャンパスは、地域モニター制度や各地でのタウンミーティングなどを開いて地域の人々の意見を聞きながら、これまでも地域を知ること努力をしてきましたが、このたび、隠岐の島研修をさせていただき、さらに学生への地域の保健・医療、隠岐の人々、隠岐の文化・自然のすばらしさを感じてくれたものと思います。

島根県は高齢化率29.1%（全国第2位、全国23.3%）であり、全国より10年以上も早い高齢化を向かえ、高齢社会のモデルとしては文字通り先端をいっています。県内では限界集落や危機的集落といわれる地域が増え、高齢単身世帯及び高齢夫婦世帯が占める割合が増加し、とりわけ20～30代の若者が少なくなり、地域が衰退しつつあることを物語っています。このような地では、島根県の医師不足も深刻であるが同様に看護職の人財不足も重要な課題になっています。特に隠岐では、隠岐広域連合立隠岐病院、隠岐島前病院ともに深刻な看護師不足に陥っており、今年は、隠岐病院にもご協力いただき、今回の研修が実現致しました。

ところで、今年4月から島根県立大学出雲キャンパスは4年制になり、これを機に看護の高度の知識や技術の習得といった専門性を追求するだけでなく、従来以上に島根県の中山間地域・離島の人たちとの交流を深めていくこととしました。なぜなら、このことが大学憲章にうたってある、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現することになると思うからです。今後も、島根県立大学出雲キャンパスの教育の特徴として、地域での交流・看護研修教育を、島根県下の他の市町村での研修も膨らませていけたらと思っています。

最後になりましたが、このたびの看護学生体験ツアーの企画に際しまして、隠岐の島町松田町長、町役場看護学生体験ツアー実行委員会事務局はじめ多くの関係の皆さま、隠岐病院小出院長はじめ多くの病院関係スタッフの皆さま、こころよく民泊をご提供下さいました隠岐の島町の住民の皆さまには大変感謝申し上げます。また、引率していただきました本学の吾郷（美）先生、多々納先生、そのほか関係の教職員にはこの場を借りて御礼申し上げます。

平成24年10月15日

－ 目次 －

<はじめに>

- 「**隠岐の島町・看護研修**」
島根県立大学 出雲キャンパス・副学長 山下 一也

- 1. 研修目的** ……1
- 2. 研修内容** ……1
- 3. 学びの成果 ～ラベルワーク～** ……3
- 4. 参加者の体験レポート**
- 「**大満足の隠岐ツアー**」
- 小川 奈美(看護学部看護学科1年) ……5
- 「**お腹も心も満腹隠岐の島**」
- 木村 早希(看護学部看護学科1年) ……7
- 「**夏の隠岐の島町・看護体験研修**」
- 佐藤 摩奈(看護学部看護学科1年) ……9
- 「**隠岐の自然と人々に癒やされた看護学生体験ツアー**」
- 高松 遼(短期大学部専攻科:公衆衛生看護学専攻) ……11
- 「**隠岐の島町・看護研修での学び**」
- 仲尾 優花(短期大学部専攻科:公衆衛生看護学専攻) ……13
- 「**看護学生体験ツアーを通して**」
- 仁木 智子(短期大学部専攻科:公衆衛生看護学専攻) ……15
- 「**隠岐の島研修を通しての学び～自然と医療の視点でのまとめ～**」
- 丹羽 梓(短期大学部看護学科3年) ……17

○「この夏の思い出」

東野 彩(短期大学部専攻科:公衆衛生看護学専攻) ……19

○「この夏、最高の思い出となった隠岐の島町・看護研修」

藤原 佑衣(短期大学部専攻科:公衆衛生看護学専攻) ……21

○「雄大な自然×温かい人々=あるべき姿+魅力いっぱい=隠岐の島」

増山 由佳(短期大学部専攻科:公衆衛生看護学専攻) ……23

○「隠岐の島町・看護研修～看護学生体験ツアー～に参加して」

村山 紘香(短期大学部専攻科:公衆衛生看護学専攻) ……25

○「隠岐の島・離島医療から学ぶこと」

山根 美穂子(短期大学部看護学科3年) ……27

○「隠岐の島町・看護研修 陸から、海から、住民から学んだ4日間」

多々納 憂子(島根県立大学 出雲キャンパス・教員) ……29

○「隠岐の島町看護学生体験ツアーを終えて」

井川 芳樹、村上静夫、高梨智昭

(隠岐の島町役場 看護学生体験ツアー実行委員会 事務局) ……31

<おわりに>

○島根県立大学 出雲キャンパス・キャリア委員会委員長
吾郷 美奈恵

……33



1. 研修目的

島根県立大学出雲キャンパスの学生が「隠岐の島 看護学生体験ツアー」に参加し、離島の保健・医療・福祉体験からの学びを共有し、卒業後の進路を考えることができる。

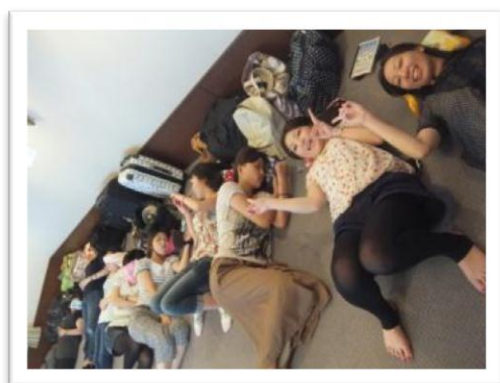
2. 研修内容

学生12名と教員2名が、隠岐の島町の「陸から、海から、住民から」学んだ、3泊4日の概要を紹介します。

9月6日（木）

学年も専攻も異なるメンバーが目的を一つに集まり、隠岐もフェリーも初体験の参加者も多く緊張も…。隠岐の島に着く頃にはそんな心配も、不安も感じられませんでした。

あたたかく出迎えていただき、黒曜石の加工体験、福浦トンネルを探検し、しっかりとローソク島に点った灯を写真に納めました。



9月7日（金）

保健（保健師）と医療（看護師・助産師）に分かれての活動を体験したあと、隠岐の島町で就職された先輩達と意見交換会をしました。離島の看護職には使命感があふれていると感じました。

夜は民泊で、家族の一員として過ごしました。



9月8日（土）

陸から、海から、ジオパークについて学びました。

夜は、各自が魚をさばき、皆さんとバーベキュー、「ごちそうさまでした！」



9月9日(日)

前日のバーベキューの後、頑張って学びを「まとめ」、お世話になった皆さんに報告をしました。

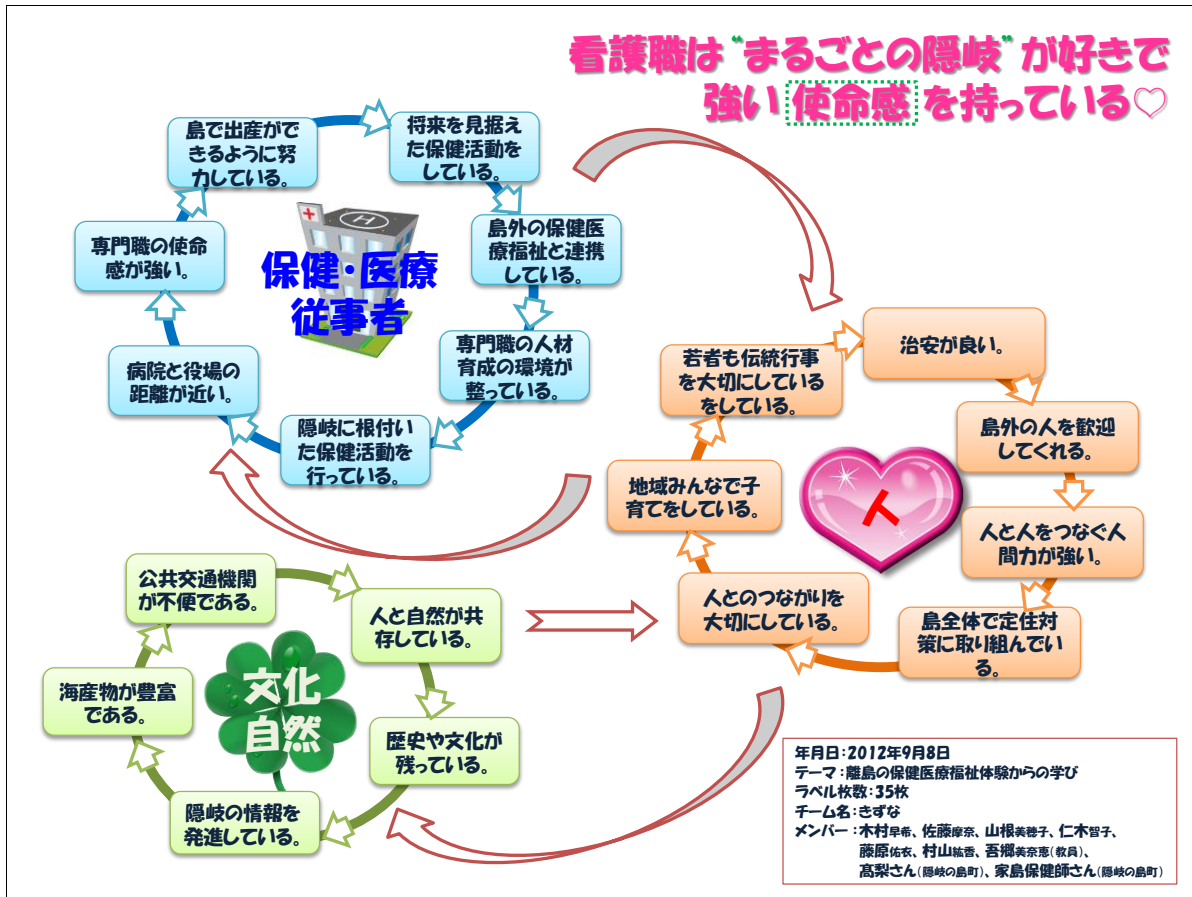


思い出



3. 学びの成果 ~ラベルワーク~

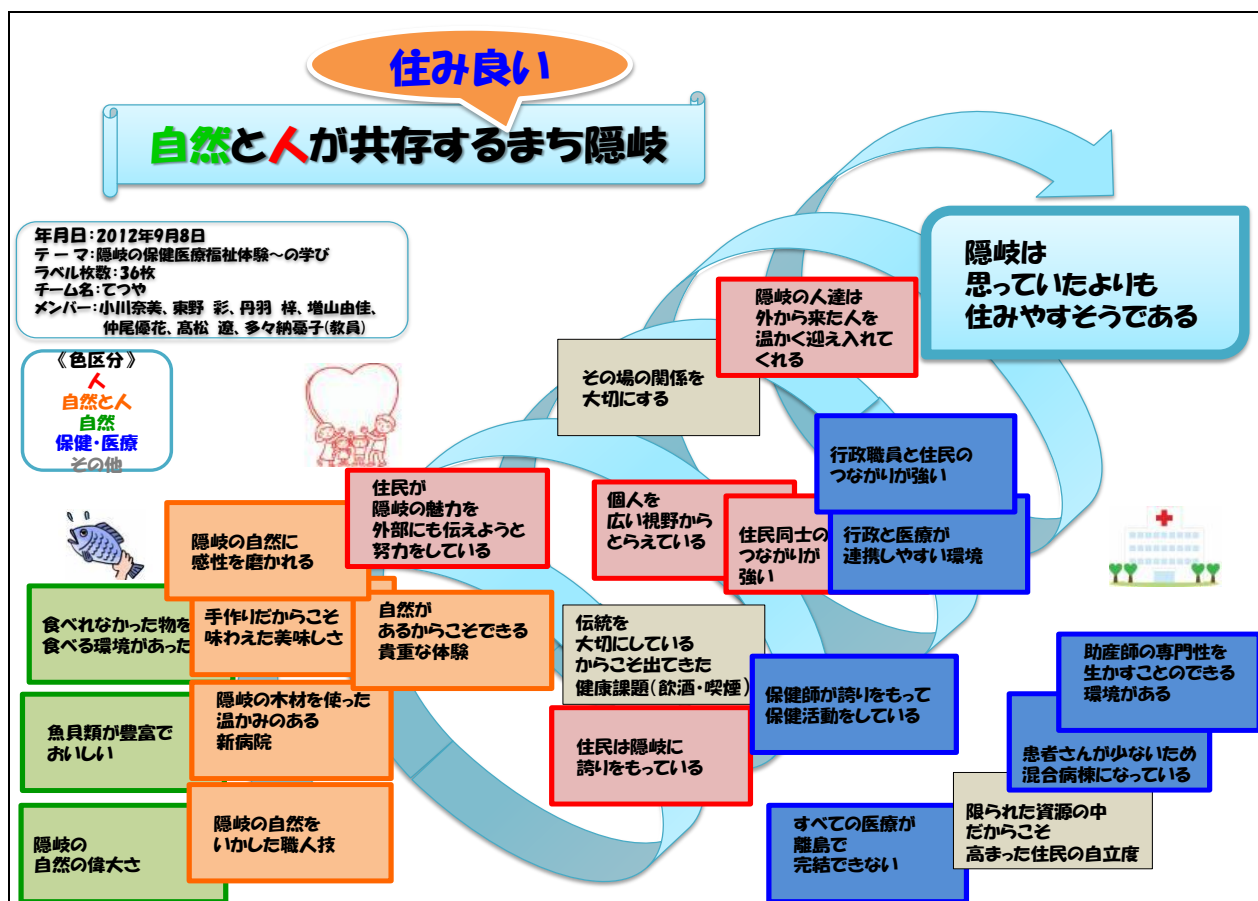
チーム きずな



左下に配置した隠岐の「文化・自然」と右に配置した「人」（島民）は、互いに慈しみ・育てあう関係にある。また、上に配置した「保健・医療従事者」は地域に根づいた活動を展開し、住民と密接に関わり合いながら将来を見据え、島外と連携していた。

これらのことから、看護職は隠岐の島町の文化・自然や人（まるごとの隠岐）が好きで、地域に根づき・将来を見据えた「強い使命感」を持って活躍していることが理解できた。

チーム てつや



「自然」「自然と人」「人」「保健・医療」「その他」が左下から、右上に向かって螺旋を描きながら進んでいる。

左下の「自然」を土台として、その上に「人」がいて、共存している。そして、取り巻くように「保健・医療」や「その他」がある。「自然」「自然と人」「人」「保健・医療」「その他」が、一方向でなく、相互に絡み合いながら、自然と人が共存する住み良いまち隠岐がつくられていることを表している。

相互に絡み合う様子を螺旋で表現し、関連が強いと考えるラベル同士を近くに配置したり、重ねるなど、ラベル配置にも大変こだわった学びの成果物である！！

4. 参加者の体験レポート

「大満足の隠岐ツアー」

小川 奈美(看護学部看護学科1年)

私がこのツアーに参加しようと思った理由は2つあります。1つ目は、隠岐出身の友達から良いところだと聞いていたからです。2つ目は、私の地元(奥出雲町)でも医師不足などが問題になっているので、離島の医療にも興味を持ったからです。隠岐の魅力を知ること、本土と離島の医療の違いを見つけることを個人の目的として4日間のツアーが始まりました。

1日目、フェリーで大はしゃぎしているうちにあっという間に隠岐に着きました。



上陸してすぐ、昼食に海の幸を頂くことができ、さっそく私の胃袋は掴まれました。黒曜石の加工体験では、個人個人のセンスが光るストラップを作ることができ、良いお土産にもなりました。加工場ではカップラーメンや煙草の空き箱を使用していたり、研磨剤を流す装置がじょうろなどで手作りされていたりと随所に工夫が見られました。また、八幡さんのジオパークについての熱弁を聞き、隠岐に誇りを持ってお仕事をされているのが伝わりました。トンネル見学とろうそく島遊覧では、人口の岩のトンネルと自然にできた岩のろうそくが対照的でした。トンネルが作られる前に古代人がろうそくを掘ったのではないかと疑いたくなりました。天気が良く、ろうそくに火が灯るところを見ることができて良かったです。民宿では、大きなお頭付の新鮮なお刺身を中心に、お腹一杯ご馳走を頂きました。サザエとアワビのお刺身ははじめて食べましたが、独特の食感にやみつきになりました。

2日目、これまたおいしい食事で一日が始まりました。お刺身もおいしかったです。朝食の焼き魚もまたおいしかったです。病院に移動して、病院見学、体験、意見交換会などをしました。まず新病院には木が壁や椅子や机にたくさん使用されていることで、温かみがあり、患者さんや、病院を訪れる人は気持ち良く過ごせるだろうなと思いました。説明を聞いた中で一番印象に残ったのは、院内助産システムについてです。産婦人科医が不在となった時、島での分娩を諦めずに、助産師だけでやろうという思いの強さに感動しました。緊急時の対応が難しい分出産までの妊婦管理が良いこと、外来時から母親と対面するようになったこと、様々な要因があると思いますが、緊急帝王切開が0件なのはすごいこ

とだと思いました。出産をするお母さんたちにとっても、妊娠時から出産までよく知った助産師に見てもらえるのは安心かもしれないなと思いました。産婦人科医がいらっしゃるようになって、助産師が中心となって、医師が介入したケースが少ないというのにも驚きました。また、病棟が混合病棟になっていることで、幅広い知識が必要な分、多くの経験ができるのは魅力的だと思いました。新卒看護師へのプリセプターの指導が手厚いのも、いいなと思いました。田舎暮らし体験では、齊藤さんのお宅でお世話になりました。お借りした長靴の出番こそなかったですが、齊藤さんのお孫さんたちと賑やかに楽しい時間を過ごせました。お茶の作法を教えてくれたり、お絵かきをしたり、なぞなぞを出してくれたり、私たちが面倒を見るつもりが、仲間に入れてもらって、一緒に遊んでもらったような感じでした。



3日目、齊藤さん宅を出るとき、お孫さんたちに「また来てね」と言ってもらえてすごく嬉しかったです。ジオパークの観光では、隠岐の自然と歴史に圧倒されました。山に入れば、神秘的な神社や巨大で不思議なかたちをした杉があり、海に出れば、駆け出してくる綺麗な水面。どこに行ってもはずれがなく、島全体が観光スポットなんだと感じました。交流会の準備では、魚のさばき方を教えていただきました。自分たちでさばいたお刺身は少し不格好でしたが、とてもおいしかったです。交流会では、多くの種類のご馳走を用意してくださり、全種類制覇した時点で満腹でした。お酒の飲めない1年生3名は、カルピスを片手に、食べまくりました。

最終日、天気が悪く、シーカヤック体験ができませんでした。しかし、雨の日しか見ることのできない滝を見ることができました。おいしい昼食の後に、徹夜して話し合ったまとめの報告会でした。先輩方は看護学生らしい視点の内容でしたが、自分はまだまだそのレベルではなかったです。同じ経験をしていても、見方が変われば、学びの質が違ってくるのを感じました。

4日間のツアーは本当に充実していました。ぜひ来年も参加したいです。隠岐の皆さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

「お腹も心も満腹隠岐の島」

木村 早希(看護学部看護学科1年)

私がこの隠岐の看護学生体験ツアーに参加しようと思ったのは、隠岐出身の友達から隠岐の話を知っていて、行ってみたいと思っていたからです。あと、海に入れたらいいなと思っていました。そして隠岐の病院の見学に行くことができるということで、いろいろな病院の見学や看護体験に行ってみたいと思っていたのでちょうど良い機会だと思いました。

隠岐にはコンビニもないと聞いていて、島だからいろいろ不便なことがあるのだと思っていました。でも本当に楽しみにしていて、行きフェリーから帰りのフェリーを降りるまでとても楽しくあっという間に時間が過ぎていきました。

黒曜石の加工体験では、八幡さんから隠岐のお話もたくさん聞くことができました。ちなみに自分が作った黒曜石のストラップは弟が勝手にランドセルにつけて喜んでいました。ローソク島遊覧ではきれいなローソク島を見ることができて本当に良かったです。

隠岐での4日間に新鮮な魚介類をたくさんいただくこともできました。1日目に泊まった井の本さんでは魚の頭がお皿に乗っていてびっくりしました。隠岐に行ってお刺身をたくさんいただきましたが、サザエのお刺身は最高でした。食べすぎで顎が痛くなりました。3日目のバーベキューで食べたカキやヒオウギカイもとてもおいしかったです。

2日目の隠岐病院の見学では、新しくなった隠岐病院内を見学や、医師や看護職の方のお話を聞きました。隠岐病院では助産師だけでの分娩ができるシステムができており、以前は本土へ行き出産しなければならなかった妊婦さんが島で出産できるようになっていることがわかりました。妊婦さんの管理をしっかりしていて、分娩時には助産師がずっと側についてくれるそうです。ずっと助産師が管理してくれることで妊婦さんも安心できるし、妊婦さんに寄り添った看護だと思いました。病院内の見学では、病室を順番に回って患者さんともお話をしました。私たちが病室に入ると患者さんたちは「よく来てくれたね」「隠岐はいいところだよ」「看護師になったら隠岐で働いてね」などと笑顔で迎えてくださいました。見学に行く前の私の病院のイメージは、看護師や医療スタッフが忙しそうに走り回っているというようなイメージでしたが、落ち着いていて穏やかな印象を受けました。看護師と患者さんが会話をしているのを見て、何を話しているのか分からず隠岐の方言にも興味を持ちました。

隠岐に行く前に不安だったのが民泊でした。知らない方の家に泊めていただくのは不安でしたが、斎藤家のみなさんはとても温かく私たちを迎えてくださいました。3姉妹のお迎えに行って、一緒に遊びました。子供たちは元気いっぱい本当に楽しかったです。「お姉



ちゃんまた来てね」を言ってくれて嬉しかったです。

3日目の観光で行った乳房杉のところで、地面から涼しい風が出てきていたのにはびっくりしました。隠岐には海もあって山もあって、玉若酢神社の杉やかぶら杉も大きくて、隠岐の自然すごいなと思ったし、それを守っている隠岐の皆さんも素敵だと思いました。



夜のラベルワークでは他の人の意見も聞くことができ勉強になりました。4日目に発表を聞いて、

感動しました。隠岐での4日間は楽しいだけでなく、隠岐のことが知れて良い経験になりました。私の住んでいるところも田舎です。島根県自体が田舎なのですが、改めて島根

は良いところだと思いました。隠岐病院で働いている新人看護師さんが「隠岐が好き」と言っておられたように、私も自分の地元が好きです。そしてこの4日間で隠岐も好きになりました。私は大学に入学する前から将来は島根で働きたいと思っていました。島根にもいろいろなところがあって、今回の体験ツアーを通して、隠岐というところを少し知ることができました。これからもっと島根のことを勉強して、将来島根のいろいろなところで働きたいです。もちろん隠岐でも働いてみたいです。

シーカヤックができなかったのが残念だったので、今度隠岐に行ったときはしたいです。隠岐の島のみなさん本当にありがとうございました。



「夏の隠岐の島町・看護体験研修」

佐藤 摩奈(看護学部看護学科1年)

私は今回この研修を通して、隠岐に初めて行きました。離島の病院について詳しく知るのも、今回が初めてで勉強になりました。隠岐の病院に行ってみるまで、離島の病院は医師や看護師不足だったり、あまり設備が整っていないイメージがありました。また以前に、本土まで行かないと出産が出来ないというのを聞いていたので気になっていました。

隠岐病院に行ってみてまず、隠岐病院が今年の春に新しくなったこともあります。私が思っていたよりも設備がとても整っていると思いました。看護体験では最初に、4階の内科系の病棟を見学させていただきました。4階には監察室や緩和病室などがありました。病状が重い患者さんが、本土へ搬送するドクターヘリが来るまでの間待つ監察室はナースステーションからみえる位置に部屋があり、患者のかたが急変してもすぐに分かるようになっていました。また、急変されてもすぐに駆けつけて処置ができるようにナースステーションには監察室へ行く専用のドアもあり、症状が重い患者の方への対応も整っているんだなと思いました。

3階の外科系の混合病棟では最初に新生児室などを見学させていただきました。隠岐病院では生まれて赤ちゃんに異常などがなければ、その日のうちにお母さんの元と一緒に過ごすと聞きました。実際に生まれたばかりの赤ちゃんも見せていただいて、生まれたばかりの赤ちゃんはとても可愛く、またお母さんもすぐに赤ちゃんと一緒に病室で過ごせるのでとても嬉しいんだろうなと思いました。分娩室も見学してみて陣痛を和らげるための道具などいろいろあり、また、分娩室と分娩を待つ部屋がすぐ近くにあるので、陣痛が強くなったお母さんがあまり移動せずに分娩室に行けるのはいいなと思いました。ほかに病室訪問もさせていただきました。患者さんの病状はさまざまでしたが患者さんと看護師さんの仲がよく、おしゃべりも楽しそうにしておられました。私たちが病室にお邪魔させていただくと『まあ、若いわあ』、『元気なパワーがもらえたわ』など、温かく受け入れてくださるとても嬉しかったです。実際に患者さんの車椅子もおさせていただきました。患者さんと一緒に外の景色を見たり、病棟を少し回ってみたりできていい体験になりました。患者さんにとってもいい刺激となったのか、普段は苦手で行かれないリハビリ室にそのまま行かれたので良かったです。

質問させていただく時間もあり、隠岐についてや病院についていろいろ知ることができました。まず、隠岐病院の助産システムについてすごいと思いました。一時期隠岐では出産が出来ない時がありました。しかし、隠岐の助産師の方などを中心に隠岐でも出産できるようなシステムを作られ、しっかりと隠岐の妊婦さんを支えておられました。緊急帝王切開などが今のところなく、安全で安心な出産ができているんだなと思いました。隠岐では助産師の方が中心となって、生まれるまでやお産をサポートされているので、本土よりも助産師の活躍する機会や責任は大きいんじゃないかと思いました。助産師の方たちの努力は本当に凄かったです。ほかに、病状の重たい緊急の患者さんを本土へ搬送するのに、ヘリだけでなく、天気が悪くてヘリが飛ばない場合は海保の船などで搬送することもある

と言われました。本土へ搬送するシステムもしっかりとしていて凄いと思いました。

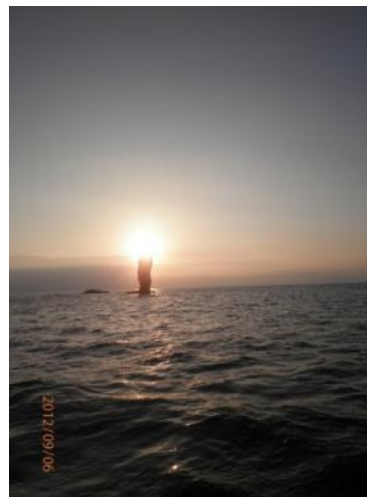
3泊4日の隠岐研修を通して、病院だけでなく、隠岐の島を知ることができました。民泊などをしてみ隠岐の人と人との繋がりが深いこと、また、昔からの歴史や文化大切にしておられました。食べ物もおいしくて、なにより隠岐の島の人たちはみなさん温かかったです。隠岐が好きになりました。機会があればまた、隠岐に行きたいです。



「隠岐の自然と人々に癒やされた看護学生体験ツアー」

高松 遼(短期大学部専攻科:公衆衛生看護学専攻)

ツアー初日、隠岐ってどんなところだろうとワクワクしながら、船に乗っていました。隠岐についてすぐ、昼食に早速お刺身がでてきてこれからの料理が楽しみになりながら、おいしく食べました。また、役場の方から「ローソク島遊覧で、夕日が見られるのは3回に1回見られたらいい方だ」というお話を聞き、そんなに簡単に見られるものではないのだと知りました。私にとってツアーの楽しみであった、ローソク島遊覧で夕日を見たいという思いがとてつよくなりながら、黒曜石加工体験へと向かいました。そこでは、隠岐にとっても詳しい方からお話を聞いたり、黒曜石を加工してストラップを作ったりしました。素敵な隠岐みやげができてとても楽しかったです。そして、福浦トンネルを見学した後、待ちに待ったローソク島遊覧でした。ローソク島に向かう船からの眺めは最高で、海や岩など自然って本当に壮大ですごいと感じました。そして、ローソク島に夕日がかかった瞬間「すごい！！」としかいいようのない感動で自然が作り出した大きなローソクに火が灯ってみえました。本当に素敵な1日でした。



ツアー2日目、隠岐の保健・医療・福祉の現場で働く先輩方の活動の様子を聞いたり、実際に体験させていただいたりしました。体験は、健康教室に参加させていただきました。内容は地区ごとにされている男の料理教室でした。男性が主に料理を作り、女性は口だけで手はださないようにとのことで、料理されていました。その雰囲気はとても賑やかで和気相合としていて、人と人がつながるって素敵だと感じました。また、保健師さんと栄養士さんが連携されていたり、伝えたいことをピンポイントで伝える必要があり話す内容の程度など学ぶことができました。その日の民泊先は、保健師さんのお家でご飯をいただきながら、保健師の仕事についてなど話をしました。隠岐の行政職員も含め隠岐の方は、本当に隠岐がすきだと感じた1日でした。そして、保健師になりたいと改めて思った1日となりました。

ツアー3日目、朝からジオパーク現地視察にでかけました。玉若酢命神社にある杉の木は樹齢1800歳で偉大さを感じました。その杉の木で驚いていたのもつかの間で、かぶら杉や乳房杉など隠岐にはおもしろい形をした杉の木がたくさんあり驚きっぱなしでした。また、風穴からひんやりとした風が流れていました。その後、浄土ヶ浦では澄んだ海に手をつけてみたり岩に登ってみたりたくさん自然と触れあうことができ、心までリフレッシュできました。その夜は、交流会がありそのための準備で初めて1から魚をさばきました。これからお嫁にいくものとしてありがたい体験でした。夜は、お世話になった方々とお話をしたり星を眺めていると流れ星が見えたり、前から見たかった海ホタルがみられたりして本当に楽しかったです。しかし、その夜はこれまでの学びを共有するために遅くまでラ

ベルワークをしました。みんなが納得できるまでディスカッションできて隠岐について深く考えられ本当に濃い1日でした。

ツアー最終日は、シーカヤックの予定でしたがあいにくの雨で中止となりました。このツアーの楽しみの1つであった、シーカヤックができなかったのは本当に残念でした。しかし、雨が降らないと見られない滝が見られたことは、雨だからこそみられた滝って素敵だと感じました。

隠岐で4日間過ごしてみて、4日ではわからない事だらけですが自然や人とふれあえて本当に癒やされました。また、離島ならではの人と人との関係や医療・保健・福祉など学べて実り多いツアーとなりました。また、隠岐に行きたいです。



「隠岐の島町・看護研修での学び」

仲尾 優花(短期大学部専攻科:公衆衛生看護学専攻)

今回、このツアーに参加した動機は二つある。

まず一つ目は、隠岐の島という離島での生活の様子と医療を見てみたいと思ったからである。私も離島の多い県出身なので、何か共通点や見習うべき点などがあれば学んで持ち帰ってと考えていた。二つ目に、一度離島に行ってみることで、将来離島で働くとなった際に少しでも不安感が軽減できればいいなと考え、参加する事にした。

隠岐の島での4日間はとても充実していた。隠岐の島は、とても自然にあふれていて魅力的な島であった。特に印象に残ったのは海である。とにかく透明度が高く底が見えるのには驚いた。色もグリーンがかったエメラルドブルーで初めて見る色の海だったのでとても感動した。隠岐ジオパークが認定されなかったのは残念だが、認定されたらまた足を運びたいと思った。

2日目には、保健医療体験の中で、保健師さんから地域の実情や保健活動の実際について話を聞く事が出来、調理実習にも参加させていただいた。そこでは、私と同じ苗字という事で「俺の妹」などと住民の方がとても親しくしてくださり、充実した時間を過ごす事が出来た。調理実習の中で、お母さん方の料理テクニックや、栄養士さんの健康教室など、今後の生活や仕事で役に立つであろうことを学ぶ事が出来た。

また、本土出身で隠岐に就職を決めた先輩の話からの学びが、今回の研修で一番の収穫であった。「隠岐で保健師をする事で人から必要とされていると実感でき、やりがいがあること。」そして、「離島で働くといっても一度住んでしまえば離島と感しない。すぐに帰る事の出来る距離にある。」というのがとても印象に残った。私も、県立の病院から内定をもらっていて、離島での勤務が義務なのでとても不安で仕方がなかったが、先輩の話を聞いて、「離島は帰る事の出来る距離にあるところ。離島で働くのは怖いことではない。」と、離島ではたらく決心がついた。

3日目には民泊をして、普段関わる事のない学部の1年生と一緒に、寝食共にし充実した時間を過ごすことが出来た。中でも、民泊先のご主人とお孫さんのお迎えがてらに木の実やブドウをむしって食べたのは、田舎暮らしならではの感じがしてとても楽しかった。

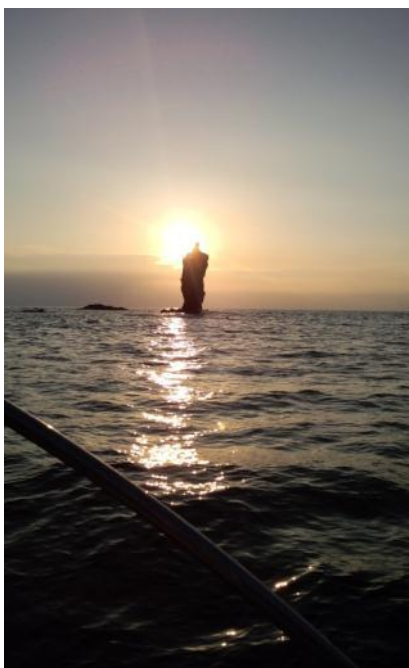
4日目には、雨が降ってシーカヤックが出来なかったのは非常に残念だったが、雨の日にしか見えない滝を見る事ができてよかった。フェリーで隠岐を離れるときに、港にいた住民の人たちと手を振りあって、キャッチボールのマネをしてやり取りをしたのもとても楽しくて、隠岐の人の温かさを実感した。

隠岐の島は人口が減少している事もあるが、外部の人を温かく受け入れて、とにかく隠岐に住んでもらおうという思いが強い。自分の住んでいる所に外部の人を進んで招き入れる事はすごく課題が多く、もしかすると住民も葛藤があるのかもしれない。しかし、隠岐の島町は、自分の住んでいる所への愛情がとても大きく、よりよくしていくために外部の人を招き入れるという姿勢は、離島は見習うべきところではないかと感じた。私の住んで

いる所は、外部の人が入ってくるのをあまりよく思わないような所があるので、隠岐のように、この場所を好きになって住んでくれる人に対しては温かく迎え入れ、共によい地域をつくっていきけるような関係を築いていくが必要だと感じた。

今回の研修では4日間した隠岐に滞在しなかったが、出雲につづき第三の故郷と思えるほどの隠岐が好きになった。絶対にまた隠岐に行きたいし、機会があれば住んでみるのもいいのかもしれないと思った。今回の研修で得た学びと、友達との楽しかった時間を忘れずにこれからも勉学に励みたい。

隠岐の島ベストショット



「ローソク島」
日頃の行いがいいので(笑)
綺麗に見えて感動しました!!



「浄土が浦」
海が本当にきれいでした!!知り合
いにこの写真を見せたら絵葉書
みたいと褒められました(*^_^*)

「看護学生体験ツアーを通して」

仁木 智子(短期大学部専攻科:公衆衛生看護学専攻)

今回の看護学生体験ツアーに参加して、たくさんの学びを得ることができました。いろいろなものを見て、感じ、考えることができました。

1日目はフェリーで隠岐の島町へ向かいました。山に囲まれて育った私は、フェリーに乗ることや、海の風にあたることも新鮮でこの研修がとても楽しみになりました。西郷港では、隠岐の島町役場の方が迎えてくださいました。今回の研修のために時間をかけて準備してくださったと聞き、とても感謝しています。それと同時に準備してくださった分、たくさん楽しんだり学んで帰りたいと思いました。昼食をいただいた後は黒曜石の加工体験をしました。ここでは、隠岐の歴史やジオパークについての話も聞かせていただきました。長い歴史や隠岐に残る自然を大切にしてきたから、きれいな自然が残っているのだと感じました。福浦トンネルなども見学しましたが、長い時間を掛けてつくられ、残されてきたのだと思いました。その後、ローソク島を見に行きました。これは、私が一番楽しみにしていたことで、晴れてきれいにローソク島が見えたときは本当に感動しました。その夜は民宿に宿泊しました。夜の海へ散歩に行き、星を見ました。地元で見える星とはまた違って、海を見ながら見える星は新鮮でした。

2日目は男性料理教室に参加させていただきました。家で出来た果物を持ち寄ったりなど、地域の皆さん同士、仲が良いことがうかがえました。また、島外から来た学生の私たちもあたたかく迎えて下さいました。地域の皆さんがとても仲の良いところや、あたたかい雰囲気がとてもいいなあと感じました。午後からは意見交流会に参加し、病院に勤務しておられる看護師さんや、役場の保健師さんから様々な思いを聞くことができました。隠岐で働いておられる方々は、本当に隠岐のことが好きなんだということが伝わってきました。同時に、島民の健康は自分たちが守るという強い使命感を持って働いておられるということを知りました。この日は民泊をしました。夕方、船に乗って釣りに連れて行っていただきました。釣りはほとんど経験がありませんでしたが、親切に教えてくださり何匹か釣ることができました。海の上から見える夕日もきれいで、とても貴重な経験ができました。夕食で頂いたお刺身が、いつも食べるものと違って新鮮でとても美味しかったです。

3日目は朝から隠岐の観光をしました。玉若酢命神社、かぶら杉、白島、乳房杉、春日神社、浄土ヶ浦、ものづくり学校などを見ました。隠岐は古い歴史が残る島であることを改めて実感しました。夜は交流会で楽しい時間を過ごすことができました。楽しい時間を過ごした後のまとめは楽なものではありませんでした。しかし、それぞれ隠岐で感じたことや学んだことがたくさんあり、妥協したくない思いもあって活発な意見交換ができました。

4日目は雨が降ってしまって、シーカヤック体験は出来なくなってしまいました。しかし、雨が降らなければ見ることの出来ないものを見ることが出来ました。

4日間の研修は毎日が新しい学びや気づきがありました。きれいな自然を見たり，隠岐のあたたかい方々と関わることで本当に幸せでした。まだまだ私には知らないことがたくさんあって，もっといろんなことを知ったり経験したいと思いました。このような貴重な機会を下さった隠岐の島町の皆さんには感謝に気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



「隠岐の島研修を通しての学び～自然と医療の視点でのまとめ～」

丹羽 梓(短期大学部看護学科3年)

今回、4日間の隠岐の島での体験ツアーに参加して、隠岐の島の自然や文化の魅力を感じたり、医療においても離島ならではの、そして隠岐の島ならではの医療を実際に見ることができ、それぞれの分野において多くの学びを深めることができた。

私がこのツアーに参加したきっかけは、友人に誘われたことも理由の一つだが、私は幼いころ2年間ほど隠岐の島の島後に暮らしていた。まだ幼いころであったため、両親から隠岐の島で暮らしていたときの様子を聞いたり、アルバムに載っているその時の写真を見ても、覚えていないため、隠岐の島で暮らしていたことに対し実感がわかなかった。そのため、一度は自分が育った隠岐の島に行ってみたいと思っていたので、今回のツアーを機会に隠岐の島に行き、隠岐の島の自然やさまざまなことを見て、体験したいと考えたからだ。また、離島である隠岐の島における医療環境はどのようになっているのだろうかという興味があったことも理由の一つである。

実際に隠岐の島に行き、黒曜石やかぶら杉、玉若酢命神社など、隠岐の島の自然や文化はとても魅力で、どれもが素晴らしいものだった。中でも、私はろうそく島やかぶら杉が一番印象に残っている。ろうそく島はなかなか一回で綺麗な光景を見ることはできないと伺っていたが、その時は天候に見舞われ、快晴であったので、船の中からとてもきれいなローソク島の光景を見ることができた。夕陽がとてもきれいで、ローソク島と重なった瞬間を見て、本当に自然は綺麗で、素晴らしいところだなと感じた瞬間だった。私はこんな素晴らしいところにいたんだなと感じた。また、かぶら杉や乳房杉など古く昔からある大木は写真と比べ、本当にすごいものだった。隠岐の島の方々から、隠岐の島についてさまざまな事を聞き、隠岐の島は不思議な場所でもあり、この島は本当にすごいところなんだなと感じた。



また、今年5月から新病棟になった隠岐病院における看護師体験では、離島で人口が少ないという短所を補うために、助産システムなどこの離島ならではの工夫が施されており、本土との違いについて学ぶことができた。私は隠岐の島に来る前までは離島であることから緊急で搬送する時に時間がかかるなど不便な面しか見ていなかった。また、離島で生活している人のために命と健康を守るというこの病院の目標はとても凄いものだった。また、看護師や助産師、看護師長さんのお話を通して、本当に隠岐が好きで、隠岐の島で働くことに誇りを感じておられ凄いと感じた。私も見習わないといけないと思うところが多々あった。いままで実習では、混合病棟ではなかったため、混合病棟の特徴を知る機会にもなり、勉強になった。

民泊での体験も忘れられない貴重な体験だったと私は思う。私がお世話になった民泊の方はとても親切な方々だった。民泊の方だけではなく、隠岐の島で出会った方々は私たちをととても暖かく迎えてくださり、また、私がお世話になった民泊の方は近隣との住民と仲が良く気軽にお家に入ったりする光景を見て、隠岐の島の方々は近隣同士協力し合っておられる姿を見て、こういう身近な関係は素敵だなと感じた。また、民泊の方々から頂いた写真は本当に貴重で、大切にしたいと感じた。

隠岐の島での体験は本当に忘れられない貴重な経験だった。隠岐の島で体験したことを胸に刻みたいと感じた。そして、機会があったら隠岐の島に家族や友人と一緒にいきたいと感じた。今後もこの研修は、隠岐の島の魅力を感じたり、離島ならではの医療を見る機会ができるので続けていってほしいと思った。この研修に参加できて本当によかったと思う。



「この夏の思い出」

東野 彩(短期大学部専攻科:公衆衛生看護学専攻)

「すごーい！」この言葉を何度口にしたかわからないほど感動しっぱなしの 3泊4日だった。まずフェリーが想像以上に大きかった。そのフェリーに乗り、フェリーから本土を離れていく様子を見ながら、隠岐の島はどんなところだろうとワクワクしていた。あっという間に隠岐の島に到着し、隠岐の島町の役場の方々に温かく迎えられ、フェリーから降りた瞬間から温かいところだなという印象が強かった。すぐに昼食となり、私は嫌な予感がしていた。この体験ツアーに参加する前から、不安が一つだけあった。それは、私は魚介類が苦手で、もう何年も食べていないということ。しかし、隠岐の島といえば新鮮な魚介類を味わうことができるというのが楽しみの一つである。初日の昼食時から魚介類が出てくるだろうなと思っていたが、その予感が的中し、この4日間私は過ごして行けるだろうか不安になった。



初日の午後は、黒曜石の加工体験をし、そこでは隠岐の島の歴史や隠岐の島の自然の偉大さを語っていただき、私は島根県に来て4年目になるけれど隠岐の島のすばらしさをまったく知らなかったなと思い知らされた。一日目で一番印象に残っているのは、ロウソク島の遊覧だった。私たちの日頃の行いがよかったおかげで、きれいに夕日と重なったロウソク島を見ることができた。この瞬間は、みんな大興奮だった。夕食は民宿先で、やはり魚料理。お腹が空いていたのか、食べざるを得ない状況だったのか、刺身を食べておいしいと感じた。本当にびっくりしたし、魚をおいしく食べられたことがすごく嬉しかった。

二日目は、男性料理教室に参加させていただいた。保健師さんはみなさんととても明るく、仲が良くて温かい雰囲気だった。また、料理教室に参加された方々もわきあいあいとしている印象だった。このような雰囲気は、自然豊かな隠岐の島がそうさせているのかなと思った。現場で活躍する先輩方との意見交換会では、隠岐の島の方は、隠岐の島を愛し、隠岐の島で働いていることに誇りを持って仕事をしているのだなということ強く感じた。隠岐の島の方が隠岐の島のことを大好きだからこそ、その思いが温かさとなり、外からやって来る私たちに温かい印象を与えるのだということがわかった。民泊先のお父さんお母さんは、待ってたよと笑顔で温かく迎えてくださり、民泊は初めての体験だったので私も温かい気持ちになった。お父さんの漁船に乗せてもらい魚釣りをした。思っていたよりもたくさん釣ることができて、とてもいい体験ができた。夕食はお母さんが盛りだくさんの

料理を振る舞ってくださり、お腹いっぱいになった。刺身、煮魚、焼き魚とあらゆる魚料理を出してくださり、すごくおいしくて全部食べることができた。こんなに魚を食べたのは初めてで、こんなに魚をおいしいと感じたのも初めてだった。



民泊先でお別れをするのは寂しかったけれど、記念撮影をした後お別れをして、三日目は隠岐の島観光。とにかく自然を満喫した。この日はバーベキュー後のラベルワークをグループみんなで徹夜で頑張った。大変だったが、最後に良い成果物ができ、役場の方々にも喜んでもらえて今ではとてもいい思い出だなと思う。

最終日はあいにくの雨で、楽しみにしていたシーカヤックができなかったのは残念だったが、雨のときにしか見ることができない滝を見ることができたのは貴重な体験だった。この3泊4日、本当に楽しく、この研修に参加できてよかったなと心から思う。元々、離島での保健・医療に興味があったが、ますます興味深くなった。そして、隠岐の島のこと大好きになり、必ずまた来たいと思うし、いろんな人に隠岐の島のいいところを話してぜひ行ってもらいたいと思う。今回の研修をするにあたって、段取りからこの4日間、私たちに隠岐の島を満喫させていただいた役場の方々、出会った隠岐の島の方々に本当に感謝したいと思う。とっても楽しかったです！ありがとうございました！！

「この夏、最高の思い出となった隠岐の島町・看護研修」

藤原 佑衣(短期大学部専攻科:公衆衛生看護学専攻)

私は、今回の隠岐の島町・看護研修を出発前から楽しみにしていました。参加させていただき、私は隠岐の島町の人や自然のすべてが大好きになりました。私は、以前にも隠岐の島町を訪れたことがありました。その時から、隠岐の島町が好きになり、また行きたいと思っていました。今回、隠岐の島町での看護研修があることを知り、隠岐の島のことをもっと知りたい、また離島の保健・医療についても学び、視野を広げたいとの思いから、参加させていただきました。

今回の研修で一番感じたことは、隠岐の島町には人と人とのつながりと温かさが溢れていることです。私たちを温かく迎えてくださった隠岐の島のみなさんやお互いに顔を知っていて、道端で会った人と必ず挨拶を交わす隠岐の島のみなさんは素敵だと感じました。また、2日目の保健師体験で訪れた地区の皆さんの明るさと笑いが絶えない雰囲気も素敵だと感じました。島全体が1つの家族のようだと思いました。隠岐の島のみなさんは、隠岐の島町が大好きで、自然を大切にしておられるから、人と人とのつながりと温かさがうまれるのだらうと思いました。一方で、近年は日本のあらゆるところで、隣に住んでいる人の顔すら分からない地域もあります。そんな時代になってきている現在、このような人のつながりと温かさのある隠岐の島町は島根の誇りだと感じました。そして、看護職は人と関わる仕事であり、人と人とのつながりを改めて感じることができ、今後仕事をする中で、人の温かさをつながりを大切にしていきたいと強く思います。

また、3泊4日間の研修を通して、たくさんのものでることができました。学びはもちろんありましたが、新たな隠岐の島町の良いところ発見や体験ができ、看護学科1年生から専攻科の仲間と学年を超えて最高の思い出もつくることができました。4日間で、普段大学では得ることができない、五感を使っての学びがたくさんありました。隠岐の島町の住民の皆さんや保健師さんは、隠岐の島町の自然や文化について詳しく知っておられると同時に大切にしておられ、私も地元のことをもっと知って大切にしていかなければならないと感じました。そして、自分の住む地域の良さや特性を知り大切にすることが、看護や保健活動に繋がっていることを学びました。地域の良くない部分は住民のみなさんと改善し、良い部分は住民のみなさんと一緒にさらに伸ばすことが看護職者としての役割ではないかと考えます。また、隠岐の島には世界に誇れる文化や自然があり、それを日本だけでなく世界に情報発信しておられました。このことから私は、活動は情報発信が鍵となることを再認識しました。看護も保健活動においても情報を収集したり、発信しあったりすることで、より質の高い活動に繋がると考えます。この学びを生かし、今後も情報の発信や収集を大切にしながら活動をしたいです。私はこの研修で、ここには書ききれないほどのたくさんの学びがありました。この学びを今後の看護や保健活動に繋げていきたいです。そして、また隠岐の島町を訪れ、四季折々の隠岐の島町を知りたいです。

最後になりましたが、この研修に向けての準備や4日間お世話をしてくださった隠岐の島町役場の皆様、民宿や民泊でお世話になった皆様、体験活動や視察でお世話になった皆

様，私たちが歓迎してくださった隠岐の島町の住民の皆様にご挨拶しています。本当にありがとうございました。

この夏，最高の思い出☆



「雄大な自然×温かい人々=あるべき姿+魅力いっぱい=隠岐の島」

増山 由佳(短期大学部専攻科:公衆衛生看護学専攻)

隠岐にはジオパークをはじめとする多くの自然が残っており、それらはとても雄大で、一つひとつから強いパワーを感じた。しかし一方でこれらの自然は、人間にとっての不便さも生み出しているように感じた。例えば、道路を作れる場所が限られていて、曲がりくねった道だったり、通れる道が限られていることや、公共交通機関が少ないことなどである。だが、このような不便さの中でも隠岐では、人々が必要以上に自然を壊すことなく、その不便さを受け入れ、自然を大切にしながら自然と共に生きている姿があった。そして、そうやって自然を大切にすることで、山から綺麗な川の水をもらい、豊富な作物をもらい、海から新鮮な魚介類をもらって、自然からの多くの恵みをもたらしていた。それは隠岐の人々が自然を大切に守っているからこそ、そのバランスが崩れずに今もあるのだと思う。この自然と人間のバランスのとれたやりとりは、今の都会にはほとんど失われてしまったものであり、本来あるべき姿なのではないかと感じた。

不便ということに関して、隠岐は離島であるため、都会の様に便利なサービスや施設、機械、道具などは多くなくそういう意味での不便な面もある。一方都会には人間が楽をするための便利なモノはいくらでもある。そのため、なんでも便利なモノに頼っている分、人との関わりが必要なくなり、人と関わったり協力し合うことが自然と減ってしまっている。そして、普段からモノに頼りっぱなしである分、それが使えなくなった時、例えば東日本大震災のような自然災害のときなどに、人に頼ることを普段していないため、どうしたらいいのかわからなくなってしまう可能性がある。一方、隠岐には資源がない分、人々の自立度が高く、人と人との関わりが中心であるため人づきあいが上手で、人間力が高い。資源がなく不便だからこそその人々の努力や工夫があり、人々が助け合って暮らしている。このように、隠岐は都会のように便利なモノはなくても、“人と人との強いつながり”が今でもしっかりと残っているのである。この、人と人とのつながりが強いというのは、隠岐の1番の強みであり、何かあったときに最も頼りになる力であると思う。これこそが今の日本で失われつつあるもので、最も必要なものではないかと思う。

隠岐はこのように地域の中の人々のつながりがとても強い。そのため、その分よそ者はあまり受け入れられないようにも思える。しかし4日間隠岐の人々と関わってみると、全くそういうことはなく、逆に外から来た人でもとても温かく受け入れてくれる温厚な人柄の人ばかりだった。また、4日間隠岐にいて、隠岐に住む人々は、隠岐の自然や文化などに誇りを持っていて、皆自分が暮らしている隠岐のことが大好きであるということを感じた。それにより外から来た人にも隠岐の良さを自信をもって伝えることができ、同じように隠岐を好きになってもらいたいと思えるのだと思った。このような、隠岐の人々の、“外から来た人を受け入れる温かさ”と、“隠岐が誇りで大好きであるという思い”により、外から来た人々も自然と隠岐に惹かれていくのではないかと感じた。

4日間のツアーを通して、隠岐では、雄大な自然を土台に、自然と人とのバランスのとれたやりとりや、人と人との強いつながりなど、人々が暮らしていく上で、本来あるべき姿がきちんと残っていることを感じた。そしてその中で暮らしている人々は、自分の住む島に誇りを持ち、大好きな隠岐の良さを伝えたいという熱意があり、そして何より、外から来る人々を温かく受け入れてくれる温厚な人柄があった。そんな人々がいるからこそ、観光客は隠岐をとて魅力のある島であると感じ、また来たいと思え、好きになっていくのだと思った。



「隠岐の島町・看護研修～看護学生体験ツアー～に参加して」

村山 紘香(短期大学部専攻科:公衆衛生看護学専攻)

今回、初めて隠岐の島に行きました。隠岐の島までは、七類港からフェリーに乗って行きました。フェリーは想像よりも大きく、出港してからの景色は、天気もよくて綺麗でした。船が海に出て行くと、波で少しずつ揺れはじめるのを感じました。西郷港に到着すると隠岐の島町で定住対策に取り組んでいる役場の職員と保健師が迎えてくれました。3泊4日の隠岐の島ツアーでは、たくさんの人たちの準備によって行えたのを感じました。

隠岐の島に到着してすぐ、昼食を取りました。隠岐の島は海に囲まれ、新鮮な海産物があり、ツアーの中では魚がたくさんでてきました。私は、生魚が苦手だったので、先行き不安でした。昼食でも刺身が出ましたが、1切挑戦してみると、魚が新鮮で食べることが出来ました。隠岐の島1日目は、黒曜石の加工を体験して自分だけのキーホルダーを作成したり、海辺で黒曜石を拾ったり、福浦トンネルを散策するなど隠岐の島の自然を感じました。私がツアーに参加したきっかけは、夕方のローソク島遊覧が組み込まれていたことでした。ローソク島を見るのをとても楽しみにしていました。この日は、波も高くなく、太陽が雲に隠れることなく、綺麗なローソク島を見ることができました。また、民宿が海辺近くにあり、星をながめ波の音を聞きながら、ゆっくりとした時間を過ごしました。

ツアー2日目、この日は隠岐の保健活動について学びました。保健師の話を聞いて、隠岐の島は人と人とのつながりが強いからこそ、そこが弱みにもなり、強みにもなることがわかりました。また、将来を見据えた保健活動を行っていることを学びました。お昼は、地区ごとに行っている男性の料理教室に参加しました。住民の方がとても歓迎してくれました。一緒に料理教室に参加しましたが、男性の方は包丁を使いこなせていて、とても上手でした。作ったご飯で昼食を一緒にたべながら、隠岐の生活について話を聞くことが出来ました。夕方は田舎暮らし体験ということで、3つのグループに分かれ、民泊先に向かいました。グループごとに体験する内容が違うので、どんなことをするのだろうとワクワクしていました。私のグループは6人で、民泊先の子供たちを小学校と幼稚園に迎えに行きました。その道中では、知り合いの家からその場で収穫したブドウを食べたり、木になっているナツメをとって食べました。また子供たちと、丘を登ったり、蛇の抜け殻やメダカを見つけ、隠岐の人達は自然と共存しながら生活しているのを感じました。

ツアー3日目は、ジオパークの現地視察を行いました。隠岐の島の歴史を知りながら、神社や杉を見ました。かぶら杉と乳房杉はとても神秘的で、現在見る事ができているのは、隠岐の島の人たちが自然を守り、歴史を大切にしてくれているからなんだと思いました。浄土ヶ浦海岸では、海が透きとおりで綺麗な景色を楽しむことができました。この日の夕食は役場の職員や保健師、看護師と一緒にバーベキューを行いました。バーベキューでは、魚や貝もなりました。ここで食べた牡蠣は大きく、とても美味しくいただきました。ツアーの中でこの日の星空が1番綺麗で、空気が澄んで流れ星や天の川を見ることが出来ました。また、初めて見た海ホタルもとても綺麗でした。

最終日、朝から雨が降りシーカヤックは中止になってしまったけど、雨の日しか現れな

い滝を見ることが出来ました。昼食後、3日目のバーベキュー後に深夜までかかって作成したグループワークでのまとめを発表しました。グループワークは苦戦したけど、最後にまとめとして残せてよかったです。

今回ツアーに参加して本当によかったと思いました。自然を近くに感じ、人と人とのつながりを強く感じました。また、隠岐の島の人たちは笑顔でいきいきと生活していて、元気をもらいました。また、隠岐の島に行って今回見れなかった隠岐を知りたいです。



「隠岐の島・離島医療から学ぶこと」

山根 美穂子(短期大学部看護学科3年)

今回、隠岐の島に行くのは初めてで、隠岐の医療については、緊急の重篤な患者の場合にはドクターヘリを飛ばし、本土に搬送されるという事、また産婦人科医が不在の時期があり、隠岐の島での出産が出来ない時もあったという医師不足問題があることは今までにニュース等で聞いたことがあった。隠岐の島という離島での医療は本土以上にとても問題があるのではないかと訪れる前には思っていた。

実際に今回隠岐を訪れることになり、七類港からフェリーで2時間半、高速船なら1時間くらいで来ることが出来たため、思ったよりも遠いと感じることなく隠岐に着くことができた。しかし、やはり天候が悪化した時、本土との交通が遮断されてしまうことはどうしても起こり得る。緊急時や悪天候の患者搬送ではドクターヘリの他に、自衛隊のC1 ジェット輸送機や海上保安庁の巡視艇なども協力して行われており、色々な方法で本土へと搬送されていることが医療関係者のお話から分かった。ヘリの搬送であれば、本土から迎えに来るのに掛かる時間は30分であり、本土に緊急連絡をすれば約1時間後には本土の病院に着くことが出来る。本土にいても、山間部での救急搬送を考えれば時間的には変わらないのではないかと思えた。また、医事不足についても隠岐だけの問題ではなく、島根の山間部、西部地方でも深刻な問題である。隠岐はその点、一度産婦人科医不在となり、分娩を島内で行う事が出来ない状態になった。その教訓から、助産師だけで分娩が行えるように院内助産システムの体制を作り、異常でない分娩に関しては助産師のみで行うように現在は体制作りがなされていた。助産師の方に、お話を聴くことが出来たが、とてもいきいきと助産師のみでの分娩についての話を聴かせて下さった。異常のない正常な分娩であれば確かに助産師のみで出産を行う事は可能であり、また、助産師の意識も自分達で取り上げるといふ思いから、助産師という仕事にとってもやりがいを持っておられるように感じた。産婦人科医に頼らない院内助産システムは島根西部医療にも役立つシステムではないかと感じた。

今回離島も医療の中心になれると感じたのは Advanced Life Support in Obstetrics (ALS0) 医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースについての話を聴いたからである。ALS0は「産科救急に遭遇する可能性があるプロバイダー全てが標準化されたコースを学び、救急救命士から救急部スタッフ、産科医へと連携をとることで妊産婦死亡・後遺症を減らすことができるのではないか」という観点に立ち、周産期のより切迫した内容へ対応するために基本的なトレーニングコースを学ぶのであるが、その必要性について隠岐病院のドクターが中心となり、情報発信をしておられる。日本におけるコースの内容は、妊婦の評価・分娩介助・新生児蘇生・救急車内分娩・産後大出血であり、BLS0コースを受講し、試験に合格した場合、参加者はAAFPとALS0-Japanが認定する5年間有効な認証を受けられるようであるが、このセミナーは実際に隠岐で開催されている。その指導資格を隠岐病院勤務のドクターが持っているからなのであるが、離島であっても、情報を発信することは出来

るし、必要であると感じる人は実際に離島を訪れてでも学ぼうとする。離島であるから、何もできないという私の考えは見事に砕かれた。確かに離島という条件は、不利なことも多いと思う。本土のように病院を患者は選ぶことは出来ないし、看護師もスキルアップの為に研修等に参加したいと思っても、本土で開催される研修は日帰りでの参加は難しい為に、休みを多く必要とし、現状としてはなかなか参加しにくかったりしている。しかし、離島だから特別な問題が山積みされている訳ではなく、むしろ、離島であるからこそ島内で出来ることはやろうという体制作りが島民も協力して行われているように感じた。

今回の研修で、隠岐の医療の問題は、隠岐だけが離島であるからということではなく、島根県全域にも言える問題でもあることが分かった。島根県人としても隠岐の魅力について発信して医療職者の定住に繋がるような働きかけをしたいと思った。県民みんながもっと隠岐について知ること大切であると思った。今後看護師として働く中で、私にできることは、隠岐から搬送され入院された患者さんはとても不安な気持ちが強いことを学んだ、そんな気持ちを理解し、ケアを行いたいと思った。

↓ベストショット写真です。

皆さんの写真データーを貰いに行けなかったので、自分が撮った写真の中からなので、今一つベストとは言えないかもしれませんが。



「隠岐の島町・看護研修 陸から、海から、住民から学んだ4日間」

多々納 憂子(島根県立大学出雲キャンパス 教員)

今回隠岐の島に行くのは初めてという学生も多かったが、私にとっても初めてであった。フェリーの揺れを心配していたが、天候にも恵まれ、楽しい船出となった。どんな学生達との旅になるのかという期待と不安もあったが、隠岐の島に着く頃にはみんな最初の緊張感は薄れ、うち解けていた。



<行きフェリーにて>

この研修でやはり一番印象に残ったことは、隠岐の自然の雄大さである。フェリーが隠岐の島に近づくにつれて見えてきたのは、青い海と緑色の自然いっぱいの風景。隠岐に来たんだ、と実感した瞬間だった。まず、陸から学んだことは、黒曜石の美しさである。実際に加工体験をし、原石の特徴を生かしながら磨くことで出てきた自然な輝き。そして、かぶら杉・乳房杉と、自然が作り出した景色は迫り来るものがあり、神秘的という言葉がぴったりであった。白島海岸・浄土ヶ浦も、自然が作り出した地形に手を加えていないからその感動があった。海から学んだこと、これは言うまでもなく、ローソク島である。テレビでは見たことがあったのだが、実際に見ることができるとあって、みんなわくわくしていた。遊覧船に乗り、沖にいくほど船は揺れたが、ローソク島が近づくにつれてそれも忘れるほどだった。みんながカメラを構え、必死に写真撮影。遊覧船の船長さんと天候に感謝、素敵な風景をこの目で見る事ができた。遊覧船で港に帰る際も、きれいな夕陽が見送ってくれた。



<八幡黒曜石店にて>



<ローソク島>

そして、離島の看護についてもそれぞれの立場から学ぶことができた。みんなが口をそろえて言っていたことは、「離島だから」ということはなく、本土と変わりはないということであった。離島だからこそ取り組まなければならない課題もあるが、離島だからこそその工夫も感じられた。助産師として私が興味深かったのは、院内助産システムである。助産師のみで出産を扱うために、自己研鑽はもちろんであるが、他職種との連携も密に行われていることが分かった。混合病棟であるので、助産業務に専念できるように説明会を行ったり、患者についての医師との情報共有も密に行っておられた。何より、「生活者の健康レベルを下げないようにすること=保健指導の大切さ」という言葉が印象に残った。言われていたように、「異常なく妊娠期を過ごし、島で出産したい」という妊婦の思いも助けたのかもしれない。しかし、患者一人一人に丁寧に関わって知り、患者を第一に考えた看護の賜物だろうと感じた。院内助産システムが始まって4年、155例の分娩があり、緊急帝王切開は1例もなかったとのことである。

今回看護学科1年次生3名、3年次生2名、公衆衛生看護学生7名、教員2名が参加したが各々の立場からたくさんのことを学んだ研修であった。今回の研修では、同学年だけでなく他学年との交流もあり、住民の皆さんとの交流もあり、学生・教員共に刺激を受けることも多かった。特に離島での学びを共有したラベルワークでは、短い時間の中でみんなでディスカッションしながら、1つの物を作り上げていく過程から多角的視点を学ぶことができた。今回の研修の目的、『島根県立大学出雲キャンパスの学生が、「隠岐の島 看護学生体験ツアー」に参加し、離島の保健・医療・福祉体験からの学びを共有し、卒業後の進路を考えることができる』、目的は達成することができたと思う。「陸から、海から、住民から、隠岐の島町を知ろう！そして、離島の看護について学ぼう！」、本当に隠岐の島町で出会ったすべての人・物から教えられることがあった。隠岐の島町を知り、そして離島を知り、看護について再度深く考える機会となった研修。隠岐の住民の方の温かい気持ちに触れた4日間。今回の研修にあたり、企画・準備頂いた隠岐の島町役場の方々、ご協力いただいた住民の方々、そしてこの研修に参加してくれた学生、この研修で出会ったすべての皆様に感謝致します。



<交流会（バーベキュー）準備>
～魚を3枚におろし中～



<隠岐の新鮮な魚貝類>

「隠岐の島町看護学生体験ツアーを終えて」

井川 芳樹, 村上静夫, 高梨智昭

(隠岐の島町役場 看護学生体験ツアー実行委員会 事務局)

初めての取り組みとして看護学生体験ツアーを開催し、島根県立看護学生12名の方に参加していただき感謝しています。

そもそもこのツアーを企画したのは、町長が看護師不足を解消するために、看護学生に隠岐の島町に来て、見て、体験してもらえれば、就職先の候補となり得るのではないかという思いから始まった事です。昨年末に島根県立大学にて協議させていただいた際、大学から前向きなご意見をいただき、今回の事業につながりました。

さて、実際の体験ツアーでは、1日という短い時間でしたが、看護学科の学生は隠岐病院で実習し、公衆衛生看護学専攻の学生は、保健活動に参加するなど、住民と一緒にあった活動を体験していただきました。離島における医療の現場や保健活動の一端を垣間見たわけです。少しでも学生の皆様に離島・へき地における医療・保健活動に興味を持っていただければこのツアーの本質のところでは成功したと言えると思います。一方で参加していただいた学生の皆様に、隠岐の島町の魅力を少しでも感じていただきたいとの思いで、様々なメニューを考えました。大半の学生が隠岐の島町を訪れるのは初めてということで隠岐らしい部分を見ていただきました。隠岐の島の三大杉をはじめ、ローソク島遊覧や黒曜石体験や隠岐ジオパークの資源を見たりと、ほぼ予定通りとできましたが、残念ながら学生の皆様が楽しみにしていたであろう「シーカヤック体験」だけが天候悪化によりできなかったことが私たちも心残りです。

隠岐の島町では、島に住む者が安全で安心して暮らせる住みよいまちづくりを目指していますが、少子高齢化が進み人口減少に歯止めがかからないのが現状です。その中でも隠岐で仕事がしたい、暮らしたい若者の雇用が見いだせなくなっており、仕事を求めて島外に出ざるを得ない状況にあります。一方で高齢者は、年齢とともに当然のように医療機関や介護施設にお世話になることが多くなります。医療機関だけでなく介護施設も慢性的な看護師不足が続いています。保健活動により高齢者が少しでも長く自分で生活できるように取り組んではいませんが、現状を改善するにはまだまだ多くの人材が必要だと思えます。参加いただいた看護学科や公衆衛生看護学を専攻している学生の皆様が、就職先として隠岐の島町を選んで下さるなら最高だと思いますが、離島やへき地における活動がいかに大事なのかご理解いただき、こうした地域に対して少しでも協力していただければ幸いです。

最後になりましたが、看護学生体験ツアーは初めての取り組みでしたので、今年の反省を来年度に活かし、島根県立大学出雲キャンパスの皆様方と連携しながら継続的な事業となるよう取り組みたいと考えています。

今回参加していただきました看護学科と公衆衛生看護学専攻の皆様、そして引率いただきました吾郷先生、多々納先生には事業遂行にご協力いただき本当に感謝しております。ありがとうございました。

先に触れましたが、今回は天候悪化で「シーカヤック体験」をやむなく中止としました。来年もチャンスのある学生の皆様には、是非再度参加いただきたいですし、この体験ツアーを他の学生の皆様にもありのままを伝えていただければ、きっと来年の体験ツアー希望者が増えるものと思っています。

これから、まだまだ授業や実習が続くと思います。1年生は勉学に励み、また、国家試験を受験される皆様は、合格できるよう日々頑張ってください。皆様が自分の目指す“道”に進めることを祈念しております。

<おわりに>

吾郷美奈恵(島根県立大学出雲キャンパス・キャリア委員会委員長)

この研修は、隠岐の島町から「隠岐の島 看護学生体験ツアー」として提案を受け、キャリア委員会で担当し、実施しました。キャリア委員会では、学生が主体的に参加してほしいと願い、説明会や申込用紙など工夫しました。困ったことは、募集人数以上の申込みがあり、とても悩みました。隠岐の島町に相談させていただき、申込者全員である12名の受け入れを了承してくださいました。ありがとうございました。

私もこの研修に参加し、たくさんの学びと発見がありました。その一部を紹介させていただきます。

1. 本キャンパスの学生は素晴らしい

学年も専攻も異なるメンバーが目的を一つに、七類港フェリー乗り場に集まりました。隠岐もフェリーも初体験の参加者も多く緊張・心配・不安もあったと思います。最初に、「その時その場で誰かが主になって主体的に挨拶するように」と伝えていましたが、3泊4日何時でも何処でも自分達で適切に挨拶していました。また、宿泊の部屋や民泊の人数で、毎回異なるメンバーに分かれることになりませんが、どのように分かれても、とても気持ちよく行動していました。また、学生達のまとめのワークは明け方まで続き、ご指導頂いた皆さんへの感謝の気持ちの表れだったように感じています。

一人ひとりを尊重し、思いやり、リーダーシップとメンバーシップがとれる、素晴らしい自慢の学生達です。

2. 雨の日だから楽しめる隠岐の島町に感激

私は、保健師養成課程の臨地実習指導で訪問したり、研修会等で呼んで頂いたこともあります。また、家族でも遊びにも行きましたので、隠岐の島町には10回以上行っていますので、それなりに知っているつもりでした。最終日に雨が降り、肌寒く、楽しみにしていたシーカヤックが中止になりました。そのお陰で、雨の日しか見られない滝を見せていただくことができました。

何回行っても、どこか違えて迎えてくれる隠岐の大自然、いつも同じように温かく迎え入れてくださる人に感激しました。

今回の研修の目的である『離島の保健・医療・福祉体験からの学びを共有し、卒業後の進路を考えることができる』は学生と一緒に3泊4日を過ごし、一人ひとりのレポートを読んで、達成できたと評価しています。また、もう一つの目的として、今回の結果から今後の出雲キャンパスで展開しているキャリア支援プログラムの位置づけについて検討することがありました。隠岐の島町のご協力により、この研修の継続が決定し、次年度のキャリア支援プログラムに位置づけることとしています。

この研修で出会ったすべての皆様と隠岐の島町の自然に感謝致します。特に、企画から実施までご指導頂いた役場や関係者の皆様、ありがとうございました。



島根県



島根県立大学出雲キャンパス
〒693-8550 島根県出雲市西林木町151番地
TEL 0853-20-0200 ・ FAX 0853-20-0201